

2018 年度（第 6 回）

龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム 公開講演会

## 「人生を変える出会いの力 — 元受刑者と社会をつなぐ」

NPO 法人 マザーハウス 理事長  
五十嵐 弘志

五十嵐弘志（いがらし ひろし）

NPO 法人マザーハウス理事長

1964 年生まれ、栃木県出身。前科 3 犯、受刑歴 20 年。

出所後にカトリックの洗礼を受け真の愛と赦しを実践するため 2014 年 5 月

NPO 法人マザーハウスを設立。

現在、受刑者の回復支援と社会復帰支援及び啓発活動に取り組む。

各大学、団体、教会等で講演多数。その他、地裁等で情状証人として証言し、  
犯罪被害者・加害者の支援も行う。

2017 年作田明賞を受賞。



土山 本日は五十嵐弘志さんをお招きして『人生を変える出会いの力 — 元受刑者と社会をつなぐ』をテーマに講演会を開催致します。本日のご講演の中身ともかかわることなので、自己紹介もふくめて五十嵐さんからおはなししていただくこととして、さっそくはじめたいと思います。では、よろしくお願い致します。

### ■犯罪の根底にあるもの

皆さん、こんにちは。NPO 法人 マザーハウスの五十嵐弘志と申します。よろしくお願い致します。参加者の中に M 市役所にお勤めの方がいらっしゃって、つい先日 DV 案件で M 市役所に女性を連れて行ったばかりだったので驚きましたが、生活福祉課と子育て支援課、男女参画課にお世話になりました。DV を受けていた二十歳のお母さんと 7 ヶ月の娘さんですが、現状は一緒に暮らす事は難しいため一旦離れて生活して頂き、できるだ

け早く母子で住めるようマザーハウスもサポートしていきます。

僕は前科 3 犯の元受刑者で 20 年ほど刑務所に入っていました。刑務所での様々な触れ合いの中でマザー・テレサの本と出会い「目の前の人を愛する事」を教えて頂き、自分で門戸を叩きキリスト教カトリックの信徒になりました。

「愛」は言葉では簡単ですが、始まりは「家庭」です。僕は中学生の時に両親が離婚し母方に引き取られました。ある日、従兄弟の下敷きが無くなる一件があり、たまたま僕が同じ下敷きを持っていたため叔父さん、叔母さん、おふくろ、おばあちゃんみんなに「弘志、お前が盗ったんだろ!!」と一方的に決めつけられました。「僕は盗っていない!!」と言い張ったんですが、「お前が盗ったんだろ!! 謝りなさい! 下敷きを返しなさい!」の一点張りです。1 週間ほどして下敷きは出てきたんですが、僕に濡れ衣を着せた事には誰も触れず、謝る事もありませんでした。僕は「家族

って何だろう!？」と思いました。一番信頼し信用するはずの家族から信頼も信用もされない僕は「ここに自分の居場所はない…」と思い、外に出るようになっていきました。当然悪い仲間たちといろんな出会いがありましたが、みんな孤独で家に居場所がないんですね。そこが僕たちの居場所になったんですが、お腹が空くと、当時はまだコンビニがなく、パン屋さんの前に置いてある商品をケースごと頂いて…と、お店の人は迷惑千万だったと思います。

当然の事ですが異性との絡みも出てきて、関係が複雑怪奇になっていきます。「愛されたい、愛したい」と思うんですが、愛がよく分からず男女間の行為が愛だと錯覚する。やりたい放題の事をやっていましたが、刑務所で「目の前の人を愛する」というマザー・テレサの教えと出会いました。僕は「愛する」という事が分からなかったんですが、マザー・テレサは「遠くの人を愛する事は簡単です。でも目の前の人を愛する事は難しい」と言いました。僕は、愛は何もかも一緒なんだと思っていました。

皆さんも日頃ニュースなどでご覧になっていると思いますが、日本の殺人事件で一番多いのは①赤の他人を殺害してしまう②友人・知人を殺害してしまう③家族・親族を殺害してしまう、この3つのどれだと思っています

か？

**参加者 ③の家族・親族です。**

そうなんです、家族・親族間が一番多いんです。一緒に食事をしたりテレビを見たり、生活を共にして触れ合っているにも関わらず、心の傷やプレッシャーなど何らかの事情でいっばいっばいになってしまうのでしょうか、殺めてしまう。刑務所でも同様で、自分の事を大切にできず自己肯定感が低い中で複雑な人間関係や刑務官とのいびつな関係性もあり規律違反事項をしてしまう。刑務所には認知症やパーキンソン病、知的障害、精神障害、身体障害など障害や病気をもっている方もいます。人間はどうしても弱い者をいじめてしまいますが、受刑者の中でも弱い者いじめが起こります。言葉が適切かどうか分かりませんが、カースト制が刑務所の中でも出来上がってしまうんですね。また、刑務官同士でも対立や派閥のようなものがあって人間関係が難しく複雑な状況になります。

そんな中、僕はたまたま24時間の介護ボランティアでさせて頂きました。ボランティアをする側もされる側も犯罪を犯した人間だけれど、もがき苦しみながらおじいちゃんたちと接して、しもの世話などしながら、社会復帰を目指しました。

## ■社会復帰—住居と仕事

僕が社会復帰したのは平成23年12月30日です。受刑中ずっと交流していたカトリックの教会の神父さんに会うために名古屋に向かい生まれて初めて教会に行き、越冬活動に参加させて頂きました。ホームレスの炊き



出しや夜回りなどを手伝って約10日間名古屋にいました。ホームレスの中に元受刑者がいるとはやはり分かるんですね。行進の訓練をしっかりとしているので歩き方で分かりますし、雰囲気やニオイを感じる。「この人元だろうな…」と話しかけると、「いました」という話になります。

10日間越冬活動に参加させて頂いた時に僕は一人のホームレスから「感謝の心」を教えて頂きました。夜回りの時、だっ広い駐車場に言葉が通じない日本人ではない男性が一人ポツンと凍えて震えていたので白湯とカイロを渡し、「明日ここで炊き出しをするのでご飯を食べに来てください」と伝えました。手を合わせてただただ「ありがとう、ありがとう」と言う男性の姿に、マザー・テレサの本の事を思い出しました。路傍の側溝に横たわるおばあちゃんをマザー・テレサが抱きかかえて頭を撫ぜると「ありがとう」と言って息を引き取った。おばあちゃんにも「こんな事もあんな事も言いたかった。こんな事をやらせてもらえなかった」と人生に不満があったと思うんですが、そういった事を抜きにして自分がしてもらった事に感謝の言葉が言える凄さが染み込み、感謝の心は絶対に忘れてはいけなと強く思いました。

翌年の平成 24 年 1 月 11 日に東京に行きました。身元引受人の方が渋谷に住んでいたからで、拘置所以来約 11 年ぶりに彼に会いハチ公前で抱き合ってワンワンと泣きました。交番のお巡りさんがずっと見ていましたが、その足で渋谷区役所に生活保護申請に行きました。

身元引受人の方の所に住ませて頂く事もできたんですが、息子さんとお嬢さんとの生活の中に赤の他人が入るのは気を遣うので、初めて生活保護の申請をしました。刑務所に

いる時に文通を通して生活保護の話は聞いていたんですが、弁護士バッチをつけている人が隣にいるからか上司の方が出てきて「そうですか、刑務所に20年ほど…。ご苦労様です」と如何にもビビっている様子で、「この人に何か言うとヤバそうだな…。弁護士もいるし余計な事を言ったら大変だ」という感じで、いとも簡単に手続きをしてくださいました。

ただ、その日泊まる所がなく、東京都には無料定額宿泊所というタコ部屋のようなものがあり、僕は「大久保寮に行きなさい」と言われました。そこは門限が17時で遅くなくても21時でお金もすべて管理され、洗濯も食事もテレビを見るのも有料で「とてもじゃないけれどこんな所は無理だ…」と思いました。刑務所と同様の管理の中で生きていく事は僕には出来なかったもので、その場でケースワーカーに連絡をして「ここは無理です」と伝えました。「ではカプセルホテルかどこかに泊まってください」と言われ、とりあえずカプセルホテルに泊まりました。東京都では1日2,300円まで宿泊代が出るので翌日ゲストハウスに移りました。そんなに良い所ではなかったんですが、パーテーションがあり一人の空間が確保されているのでそこに泊まり毎日教会に通いました。

その後、役所から「就職活動をしなさい」と言われたので就職活動を始めました。「〇〇に面接に行きました」等々、逐一報告書を提出しなければならなかったんですが、仕事は一向に決まりません。面接すらしてもらえなかったのは、履歴書に正直に経歴を書いてしまっていたからで、空白の期間が明らかに「何をしていたんですか?」と聞かれ「刑務所にいました」「そうですか…。お帰りはあちらです」といった流れで、話すら聞いて

もらえませんでした。刑務所にいた事を伝え  
ると皆さんの顔色が変わるのが分かりな  
なか就職は決まらなかったんですが、身元引  
受人の方の近くのアパートであれば良いと  
いう事で、2ヶ月でアパートを借りる事がで  
き一人暮らしを始めました。

生活保護受給者にも就労支援をしてくれ  
るチームがあり、ハローワークを通じて就労  
支援をして頂きました。ある日突然ハローワ  
ークの方に「君は生活保護を受けていて申し  
訳ないと思わないのか?！」と言われました。  
僕はカチンときて「お金を稼ぐ仕事があるなら  
生活保護は受けません。それができないから  
受けているんです」と言い返しました。その  
後税金がどうのこうのという話になった  
んですが、僕がキレて「あんたも税金で食  
っているんじゃないか!なぜそんな事を言うん  
だ!!」とバトルになり、生活保護の担当係長  
に「一切就労支援は要りません。面接もした  
くありません」と事実関係をすべて話したと  
ころ、身元引受人の方が厚生労働省に連絡を  
してくださり、その後役所からは何も言われ  
なくなりました。

その間も僕は教会に通い続け、聖書やパソ  
コンの勉強をしました。パソコンはまったく  
できなかったのが A4 用紙 1 枚を作成するた  
めに丸 1 日 8 時間をかけ、ようやくプリント  
アウトができました。昔使っていたパソコン  
は PC98 というまったく違う型でプリンター  
も使った事がなく、携帯電話も PASMO (パ  
スモ) も分かりませんでした。昔もあったは  
ずですが僕は栃木県の田舎の出身なのでド  
リンクバーも知らず、コーヒーを頼んでも僕  
の所にだけこないの「すみません、コーヒ  
ーを頼んだんですがこないんです」と言う  
と「どうぞこちらからご自由にお取りくだ  
さい」とウエイトレスさんもびっくりされて。

初めてドリンクバーがどういうものなのか  
分かりました。

#### ■「NPO 法人 マザーハウス」立ち上げに向けて

そうした生活の中、教会で祈りを捧げなが  
らマザーハウスの活動を始めようと決意し  
ました。刑務所で介護をしていた時にあるお  
じいちゃんが「俺は刑務所に居た方が良いん  
だ。帰る所も住む家もない、仕事もない。こ  
こに居れば何かあったらお前たちに相談で  
きるしご飯も食べさせてもらえるし、寝られ  
るしテレビも見せてもらえる」と言いま  
した。僕は「俺もずっと悪さをしているよう  
になってしまうのか…」と正直言ってショッ  
クでした。このおじいちゃんは僕より先に  
出所する予定だったので「じい、もう戻っ  
て来るなよ」と言っていたんですが、「俺は  
ここに居る方が良い」と言い続けていて、  
「人間は孤独には勝てないんだ…」という  
思いが僕にはずっとあり、マザーハウスの  
活動を決めました。

僕に聖書を教えてくれた身元引受人の方  
や司教さま、シスターに相談すると「体験  
者だからこそできる事があります。あなた  
自身がやりなさい」と言われ、思い切って  
立ち上がりました。NPO 法人なのでまずは  
申請書などを一生懸命に書き東京都に提出  
したんですが、2ヶ月ほど経ってから「五十  
嵐さん、刑務所に入った事がありますね?」  
と電話がかかってきました。「あります」と  
答えると、「NPO 法人は満期から 2 年経た  
なければ欠格期間に該当します」と言われ  
ました。不思議に思ったのは、普通は分か  
らない前科前歴の有無がなぜ分かったのか  
でした。警察や検察はそういったデータを持  
っていますが役所だから分かる訳ではあり  
ませんし、誰かが何

かを言わなければ分からないはずなんですが、「これでは却下になりますので、とりあえず取り下げてください」と言われ、最初の2年は任意団体として頑張ろうと決意しました。

### ■最初の取り組み「文通」

僕自身が刑務所にいて一番支えになったのは「社会の人との文通」でした。いろんな事を聞いたり不満を言ったり、赤の他人との手紙のやりとりがすごく支えになったので、まずはそこから始めました。

会をつくるために、昔の関係者との関わりは一切断ちすべて新しい人をお願いしました。様々な関係者の方々に会いお願いしましたが、最初は「あなたは何をやったんですか?」「どんな犯罪を犯したんですか?」など、僕を殺す言葉ばかり言われました。会ったばかりできちんとした関係性が成り立っていない人に「こういった事をしてしまったんですよ」とはなかなか言えません。「刑に服することで社会的な責任は果たしている。でも、被害者に対しては一生責任がある」と自分でも思っていますが、まったく関係性のない人になぜそこまで言われなければならないのか。何か言われる事によって自分自身を過去に閉じ込めてしまい、先が見えなくなってしまう。そういった意味で殺す言葉になってしまうんです。

そんな中、聖書の言葉やクリスチャンの方々から言われた言葉が生きた言葉として僕の土台となり、僕を生かしてくれる言葉になりました。あまり宗教の事を言ってはいけないんですが、そういった言葉のおかげで僕はブルドーザーのようにいろんな所の門戸を叩く事ができました。教会にも壁があって

前科者や受刑者は無理だったんですが、「こういう活動をやるので」と伝え続け少しずつ文通者を増やしていきました。

どこの刑務所に誰がいるのかは分かりませんが、僕が居た岐阜刑務所の工場の人の事は全部分かるので、直接送っては警戒されるだろうと思って私のかわりにあるブラザーを介して手紙を出しました。

でも僕にはこれしか方法がなかったのでやりました。僕が出所してから5、6ヶ月後、同じ工場にいた人が出所する時にシスターから「五十嵐さん、サポートをしてあげてください」と電話がかかってきました。彼は「いがちゃん、俺の所には手紙が来なかったけれど何をしていたの?」と。「出したよ」と言う。「来てはいたけれど全部出所時交付だったんだよ」と言われました。ブラザーを介して手紙を出していたにも関わらず出所時交付だった事がまた僕の琴線に触れてしまい、岐阜刑務所に電話をしました。「ブラザー・〇〇という方が手紙を出していたんですが、出所時交付だったと。なぜですか?」と尋ねると担当者は「出所した人物でキリスト教に感化された人がいて、その人がよく〇〇という名前を使っていたのでその人ではないのかと考えた」と言いました。僕は「実際にブラザー・〇〇という人がいたらどうするんで



すか？」と聞くと相手は固まってしまい、それでも「法律にのっとして……」となんだかんだ言うので、ブラザーの身分証明書などを全部揃えて送ったんです。

岐阜刑務所から「大変申し訳ございませんでした。こちらの手紙は早急に交付させていただきます」と慌てた様子で電話があり、その後は受刑者に手紙が届くようになりました。法律が監獄法から刑事収容施設法に変わり、受刑者と一般人との外部交通は認められていて、関係性としては同じヤクザでもその刑務所にいなければ大丈夫で、兄弟も大丈夫なんですね。例えば一方が岐阜刑務所に一方が大阪刑務所に服役している兄弟であれば文通はできます。ですが、僕のように岐阜刑務所にいた者と岐阜刑務所にいる者の文通は認められません。親戚などであれば大丈夫ですが、それ以外はダメなんです。

**参加者** ダメは理由が分かりますか？ 脱獄等の連絡を恐れているんです。

不正連絡をとってしまう…などですね。

**石塚伸一先生（刑事法）** 結婚は相手が1人なので（文通は）大丈夫ですが、養子縁組の兄弟だと（文通は）ダメなんです。養子縁組は10人でも20人でもできて10人、20人から手紙が来るので。この方法を開発したのは過激派の人たちですが、東京拘置所にいた※1 ますながさんという方は養子縁組で“ますなが”という苗字になりお母さんと妹さんがいらっしまったんですが、妹さんとは血の繋がりのない兄妹なんです。そのため監獄法の時には一切面会を認めなかったんですが、刑事収容施設法になってから認めたため妹さ

んが「20 数年ぶりに面会できました」とおっしゃっていました。それまでは面会に行っても会えず、面会に来た事すら伝わらないので毎月差し入れをしていたそうです。雨の日も雪の日も「面会に来たよ」と知らせるためにずっと。差し入れはできるけれど、意思疎通はできないんです。

**参加者** 例えば自殺の補助になるようなものが入っていないかなどがチェックされます。その中で石塚先生がおっしゃっているように文書交通は認められないんです。

**石塚** 特殊な暗号を使っているかもしれませんが、普通の文章でも意思疎通に繋がる恐れがあるのでダメなんです。実際に死刑が確定する前の接見で「これは何々を表し、これは誰と…」とブロックサインをしていた例があります。

先生もご存知のように死刑囚は執行されるまでは未決囚容者に準ずるので本来なら外部交通もできるんですが、法務省が施行規則か何かで「精神の安定を……」といった解釈をしていて、今の日本では刑事収容施設法が認めていません。受刑者も同様で一部の法律ができたばかりの頃は非親族でも面会できたんですが、平成 22 年に宮城刑務所で組織の人間と面会した際に暴力団の抗争か何かの話になって面会がストップしました。また、これが原因で他の刑務所でも面会が厳格になり、更生にしきする人間に関しては署長の判断に委ねられ、署長がダメだと言うと無理なんです。

平成 26 年、NPO 法人 マザーハウスを立ち上げた時に岐阜でたまたま友人の結婚式があり、おそらく無理だろうと思いながら

岐阜刑務所に行って面会を申し込んだんですが、やはり無理でした。ただ、2年後に再びチャレンジすると面会でできて驚きました。面会の相手は同じ工場にいて僕が介護していたおじいちゃんたちで「身元引受人なので面会させてください」と言うと、職員も僕を知っているので「受刑中の話はダメだからな」と言われましたが面会できました。3人とも無期懲役だったんですが、誰も面会に来てくれないのでみんな泣いていました。

現在は750～800名の受刑者と文通を通して関わりをもっていて、文通ボランティアは全国に約230名います。再犯防止など大事な事はいろいろとありますが、刑務所の本当の姿を知って頂いて、受刑者の更生に一番必要なのは“繋がり”だという事を知って頂きたいと思っています。

### ■社会復帰を阻むもの

ヤクザには親分、子分、兄弟という繋がりがあり、刑務所に入った側も向こう側もせつせと手紙を書きます。ヤクザが立派だと言っているのではなく、そういった関係性ができていると社会復帰した時に「はい、おかえりなさい」と戻る場所がきちんとできているということなんです。関係性ができていて繋がりが切れないので足を洗う事が難しいんですが、一般人が大きな犯罪を犯すと親御さんや親族がバッシングされ犯罪者との関係性をバッサリと切ってしまいます。再犯を繰り返す人たちのほとんどは家族との関係性がなく出所しても行く所がありません。刑務所から出た時は緊急保護等がありますが、出所しても帰る場所がないため簡単に言うとホームレスになるか再度犯罪を犯して刑務所に戻るかのどちらかです。自分を変えたい、

二度と犯罪は犯したくないという強い気持ちを持ち刑務所で自分自身としっかり向き合っている人間や社会の人の応援がある人間はおそらく社会復帰ができ、きちんと立っていけると思います。

一番不安定になるのは出所1ヶ月前で、身元引受人がいても「どこに帰れば良いのか…」と精神的に不安定になります。社会の状況が分かりませんし、テレビで見るのと面会で人と触れ合うのとでは全然違うためで、不安はすごく大きなものなんです。

僕はNPO法人 マザーハウスを立ち上げましたが、社会の人はこういった関係にはあまりタッチしたがりません。「関わりたくない」「受刑者おっかない(怖い)」と。こんな事を言っては申し訳ないんですが、法務省も当事者の声を聞こうとはしません。官僚が頭の中だけで考える指示や規則がありますが、当事者の声を聞いて「こんな事で困っているからこうしよう」とはならず、それは行政も一緒だと思います。保護司や更生保護助成会など関係者全員ではありませんが、当事者の声を聞く方は少ないです。司法や福祉の現場でもお話をさせて頂く機会がありましたが、東京の社会福祉会でお話しをした時はまさに針の筵でした。「この人たちは本当に福祉関係の人なのか…」と思うほどまったく理解してくれず、生活保護を受ける時の見方が違う。偏見の目で見るとですね。

名前を出して良いのか分かりませんが、僕が世田谷区役所に行った時の事です。世田谷区役所は死刑廃止を訴える保坂さんが有名ですが、生活福祉課の方がずっとハンカチを口元にあてているんですね。「どうしてなのかな?」と思ったんですが、生活保護を受けている方が来る度にハンカチで口元を押さえているので「ああ分かった、臭いなのか」

と。お風呂に入っていないからでしょうか、生活保護を受けている方の臭いに反応されているようでした。

**石塚** 感染症の予防だと思いますが…。警察でも行き倒れている人を見つけたらまず手袋をはめてから触れるように指導されていますから。

僕はどうしても納得できず、区長との面談の際に「生活福祉課の担当者がこういった事をやっていましたが、おかしくありませんか？」と言いました。生活保護申請をするために申請者を連れていった時も大変で、「なぜここに連れて来たのか？」に始まり「なぜうちに来たのか？」と。現地保護と言うんでしょうか、ここに住むとなると生活保護申請ができるんですが、その説明をするのが大変で、役所や関係機関でもスムーズに受け入れてくれる所とそうでない所があります。先ほどお話したように弁護士バッチが付いている人が隣にいると相手の対応が違う事は活動していてよく分かりました。

**参加者** 受け入れたくないという姿勢なんですか？

どういう姿勢なのかは分かりませんが、不正受給の問題もあったからでしょうか、全部が全部ではないのですが…。僕が驚いたのは、再犯防止推進法が可決し各都道府県に情報は流れているんですが、関係部局が知らないんですね。僕たちも普通の人も同じ人間だと思うんですが、役所側から見ると受刑者は怖い人なので、上から目線というか…。

でも、出所した人にとって役所の人は国とか権力をもつ人と見えるんです。ずっと

刑務所にいると「これをやってはいけない。やると懲罰だぞ」と言われ、上に逆らってはいけないと無意識に感じてしまう。言われた通りにやるというか…。福祉の関係者が言った言葉に対して抵抗できないんです。僕が驚いたのは性犯罪を犯した男性が「あなたはこういう事をしたのか？」と尋ねられ、彼はやってしまった犯罪をすべて話そうとしました。僕は途中で「やめろ！」と止めに入り「すみません、それは職権で調べてください」と言いました。でも彼はエグい部分もすべて話さなければいけないと思い込んでいるんです。刑務所にいた時のまま、国（権力のあるところ）の人たちの言う事はきかなければいけないと。全員が全員そうではありませんが、そうなってしまう人もいて、自分の本当の声が出せない、言いたい事が言えなくなってしまうんです。

**土山** 刑務所の、ある意味、権力的な関係を素直に受け止める人ほどそうなってしまうのでしょうか？

それはあると思います。刑務所では刑務官が法律なので逆らえません。例えやっていなくても刑務官が「お前がやったんだな」と言えばアウトなんです。今はこちらが強く言えば（刑務官の）上司が調べる事もありますし、弁護士に訴える人もいて、訴訟マニアの人はちょっとした事ですぐに訴訟を起こしていました。しかし、刑務所は壁があって社会からは見えませんし、余程の事が無い限り実際に何をやっているのかは分かりません。医療行為も社会とは全然違う事をしたり、救急車を呼んで搬送するにも所長の裁量一つで外に出られなかったりといった話を聞いた事もあります。

**石塚** 実際に訴訟が起こっています。所長の不在時に脳溢血で倒れ、部長に連絡を入れたけれども繋がらず、5時間も放置して重篤な後遺症が残ったと。御用納めの日だったので「宴会でもやっていたのでは？」と言われていますが、権限者がいなければ下の者はどうする事もできませんから。

**参加者** 人の命より許可なんですね。

組織が大事なんです。日用品も一般社会であれば100均などで安く買えますが、ボールペンは普通に定価で売っているものの肌着は丸首シャツで500円、2L、3Lサイズになると700円、800円と高くなります。パンツも500円もしますから。

**石塚** 拘置所には差し入れ屋さんがあるようですが、お菓子などは定価なんですよ。今どき定価で売っているお店はありませんよね？

**参加者** それらは作業報奨金で買うんですか？

まずは領置金を使います。領置金は刑務所に入る時に持ち込んだお金で金庫に預けます。

**参加者** 上限はあるんですか？

上限はありませんが、100万円以上になると貯金して刑務所には置きません。ヤクザの人はすごくたくさん持って来ますね。

**石塚** 作業報奨金の説明をしていただけま

すか？

作業報奨金とは刑務作業で受け取れるお金の事で、1時間の最低賃金は5円です。

**参加者** 現在の賃金ですか？!

そうです。最高の1時間50円になるには3年以上務めなければならず、現在の刑事収容施設法になってからはABCの種類があり、Aは立ち職といって立って仕事をして、Bは座り仕事である程度で上限があるんです。あと独居の人たちはCで、食事も同様に分けられます。

**参加者** 消費カロリーが違うからです。

**土山** 外との関係が閉ざされ、そういった関係の中に長くいると刑事施設内の力の関係性が身についてしまうのでしょうか？

そうですね。刑務所には悪い事をして入っているので、そこでさらに悪さを勉強するんです。言葉の暴力になってしまうので許可を頂いてから言う事にしていますが、僕から見た刑務所は「犯罪者の収容所であり養成所で、犯罪を学んでいる」ところです。刑務所内でも様々な教育がありますが、あくまでも刑務所側が用意したものを刑務所側が判断した人間にやらせているだけです。例えば「これを学びたいのでやらせてください」と言ってもやらせてはもらえません。子供が「お母さん、国語の勉強を一生懸命やりたいから塾に通わせて」と言えば真剣にやると思いますが、懲罰を盾に、やる気がない人間に「これをやりなさい」「あれをやりなさい」と上から言っても何も変わりません。一人ひと

り環境が違う受刑者と話したり信頼関係を築いたり、社会の人ともっともっと繋がりをもてる環境が欲しい。刑務官とも話をして自分と真摯に見つめ合わなければ、刑務所はただの居場所で、老人ホームと一緒にしてしまいます。今後高齢受刑者が増えますが、その人たちが社会に出た時に受刑者＝怖いという認識のままで社会は大きな壁をつくってしまうでしょう。

一方、法務省は受刑者に何ら直接の支援をしていません。保護観察や就労支援事業所といった組織へ「1人雇うと〇〇円支給します」という奨励金や再犯防止策、各市町村で空いている部屋を出所した人に低額で貸すといったサポートはあります。でも、アパートを借りるには礼金・敷金を合わせると何十万円もかかり、僕もそうでしたが、そのお金をどこでどうやって工面するのか。出所した人はそんな大金を持っていませんので、出所の時点で住む所がない訳です。自立準備ホームや施設に入れても、履歴書にその住所を書くとネットで検索されて施設だとバレてしまい、「こんな所に居るんですか?!」と就職がダメになった事が僕にもあります。

また、前科を伝えるか伝えないかをすごく悩みます。法律上伝える義務はありませんが、履歴書にも書かず伝えないまま働き始め、仕事を教えてもらったり食事に行ったりして親しい関係になって良くしてもらえばもらうほど罪悪感を感じてしまう。本当の過去が言えていない事が苦しくて潰れてしまう人もいますし、親しくなってからポロっと言ってしまうと噂になり、会社の上層部に知られ「どうする?」と言われた人もいます。そういった出所者と社会のありようとのズレがあるため、出所して即仕事とはならない。社会の人は「すぐに仕事をしなさい」と

言いますが、それが一番危ないと僕は思います。出所してまず必要なのは「心のケア」なんです。

参加者に警察にかかわる方もいらっしゃるのですが、よくはお分かりになると思いますが、やくざは組織でそれが仕事です。一般の出所者がむかう社会とちがうから、すぐ「仕事」に戻れる。でも、会社に勤めている一般の方が事件を起こしたら、仕事はどうのという以前に、その人がもっている傷を癒してあげなければどんな仕事に就いても無理だと思います。

例えば1年間刑務所にいて出所してすぐ普通の仕事に就いたとしても1年間のブランクがある訳です。今、社会の変化はとても激しいので、その時点でついていけないんです。会話一つをとっても1年のブランクがあるとなかなか難しいので、少し休憩して「自分はなぜこんな罪を犯して刑務所に入ったのか? どうしてなのか?」を考える事が必要だと。僕は犯罪を犯すには原因があると思っていて、原因もなくいきなり何かをする人はいないと思います。例えば生育環境で満足に食事が出来ずに万引きをしてしまう。そして虐待。親からの虐待で心がズタズタになっている人もいますので、そのケアをきちんとして土台をつくってから「次に何をしますか? 仕事をしますか?」だと。

### ■社会復帰への具体策

マザーハウスでは、社会復帰をした人にすぐ仕事はさせません。いろんな訓練を受けたり、石塚先生とAPS研究会に参加したり当事者ミーティングをやったり、ジョブトレーニングとしてシール貼りをしたり。そしてボランティアの方々との触れ合いです。昨日は雪かきに宮城に行きましたし、マザーハウス

便りを作って発送するんですが、それをボランティアの人と一緒にやります。そこでは当然会話が生まれ会話を通していろんな事を知る事ができますし、マザーハウスでは信仰をもつ、もたないに関係なく、必ず聖書の勉強会には行って頂きます。日本の刑法はドイツからきているそうですが、その土台には聖書十戒の「汝殺しあわない、汝盗んではいけない…」がありますので、その勉強もして頂きます。

教会に行くとは一般の人たちがいますので、その人たちと触れ合う事で繋がりができます。いろんな話ができる場所があると全然違います。つまりは「居場所」なんです。社会の皆さんもそうだと思いますが、行くと安心できる場所があると全然違うと僕は思います。

ただ、同じテーマで活動していて強く感じたのは、たとえば、いろんなシンポジウムがあっても、そこに社会の人たちの声はあるけれど当事者の声がないという事でした。誰を回復させたいのか、誰を更生させたいのか。当時者の声はそこになくお客様になっている。「こうだからこうさせれば良い」ではなく、相手も人間ですから思いも考えも何がしたいという気持ちもあると思います。その話をまず聞いてあげる事が大切です。

東京に警察官のタマゴの集まりの大学があり、僕は講師として呼ばれ「卒業後は警察官志望の生徒が多いので話をしてください」と言われました。そういった機会を頂いた時に僕はいつも最後にこう言います。「人を生かす正義と人を殺す正義があります。できれば生かす正義を貫いてください。相手を捕まえて事件の話を聞く、それはものすごく大切な事です。でも話を聞けば聞くだけその人の生育環境などが分かってきますよね。であ

れば、その人が次の犯罪を犯さないためにこういう事をすれば良いのでは？」といった意見交換もできますよね」と。実際の取調べでそういった事が可能かどうかは分かりませんが、本気で向き合って欲しいんです。マザーハウスのボランティアの方々にも「手紙でも本気で向き合ってください」「ダメなものはダメとビシッと行ってください」と言っています。相手が受刑者や前科者だと「何か言うとは何をするか分からないから怖い」と壁をつくってしまいがちですが、相手にはそれがすごく分かるんです。敏感ですから。「この人は俺の事を一步引いて見ているな、避けているな」と。それは相手に対してすごく失礼だと思いますし、本当に向き合うのであれば思い切って言えば良い。「これはおかしい」「やってはダメなのになぜやるの？」と本気で叱ってあげる。僕は「義理でも良いので自分の子どもだと思って叱ってあげてください」と言っています。「自分の子どもがそうなった時に皆さんどうしますか？ 本気で怒るでしょう？ 中途半端にはしないと思いますよ」と。僕はそれが一番大切な事だと思いますが、刑務所にはありません。おそらく誰も本気で怒られた事がないんだと思います。息子に脅されても母親は「おお、よしよし」となってしまう。そんな時は110番通報して「息子が脅した」と言い、連れて行ってもらえば良いんです。ダメなものはダメという事を、身をもって教える事が一番大事だと僕は思います。

### ■本当の更生に大切な事

マザーハウスでも「これは犯罪だ」と思ったら110番通報します。そして話をする。社会では自由で、自由という事は自己責任が問われる訳です。管理してしまうと自立はあり

ませんからマザーハウスでは管理はしません。自由だけれどある程度ルールは守らなければなりません、マザーハウスが関わった人間が逮捕されるとやはり悩めます。そして石塚先生に電話してしまいます…。

**石塚** いつも電話がかかってくるんですが、何が言いたいのかよく分からない。要するに愚痴を言いたいだけなんですよ。

「捕まって刑務所に行きたいんだから仕方がないだろう」と先生はおっしゃいます。そうですね、本人が行きたいんだから仕方がない。手錠で繋がれて一緒に行く訳にはいかないですし、本当の気付きを与える事が僕たちの役目であり、社会の役目だと思います。人を愛する、大事にする、大切にすること。その経験がない人間に「この人を愛しなさい。大事にきなさい」と言っても分からないので、その経験をつくるのが僕たち社会の人間だと思います。

受刑者問題だけでなく子どもの問題も同じで、今は「良い子」が多過ぎます。子どもには子どもの世界があるので親が入るのは良くないと思いますし、痛い思いをして分かる事があり、学ぶんです。何でも過保護に「ダメ、ダメ!!」と言うのはいかがかと思います。

社会の問題としてマザーハウスが抱える問題として、当事者とサポートする側、行政、すべてに立場があります。話し合いの中でそれらを繋ぎ、何が一番大切かを考える。法務省にも心を開いて頂き、壁をなくして頂く。相手が受刑者だからではなく、社会復帰した人間を必要な人間として話をするべきだと思います。

恵与者の人権をうたってはいますが、人権問題で当事者を入れた講演会等は本当に少

ないです。〇〇先生や〇〇の学者さんといった関係者のお話がありますが、その方々には刑務所に服役した経験はありません。当事者を優先しようと言う訳ではありませんが、声を聞いて何が重要なのかを見極めてほしい。僕の中では社会の人とのギャップを感じます。刑務所は管理で社会は自由で、どこに行くのも誰と話すのも自由ですが、自由の中では自己責任が問われ信用を築くのも失うのも本人次第なんです。そういった意味では社会で犯罪が100%なくなる事は難しいです。でも一人ひとりに考えて頂く事ができれば、再び犯罪を犯さないプレーキになるのではと。

以前疑問に思った事がありました。72、3歳の言語障害があり足も不自由なおじいちゃんが賽銭箱から20円を盗んでしまいました。これは確かに犯罪で、絶対にやってはいけない事です。でも、このおじいちゃんを逮捕して起訴して裁判にかけます。おじいちゃんは知的にも少し弱いと思われ、こちらが言った事すべてに迎合してしまうんです。そんな人を裁判にかけ受刑者1人に年間300万円の経費がかかる刑務所に入れて、果たして何が生まれるのでしょうか。犯罪は悪い事ですし、おじいちゃんも悪いです。でも、専門家がグループを組み、おじいちゃんが二度と罪を犯さないようサポートしてあげる方が僕は重要だと思いますし、そのために使うお金の方が安いと思います。刑務所の費用は300万円ですが、東京で生活保護を受ければ年間180万円程度で済み、それだけの経費が浮く訳です。福祉の専門家におじいちゃんのケアをしてもらうなど、民間も協力しながらやるべきだと僕は思います。

行政、民間、当事者が三位一体になっておらず、僕は当事者と深く関わりいろんな話をしますが、法務省は一般の行政に投げてしま

います。生活福祉課と住宅支援課など窓口が別々の部署が連携して何かをやったり、社会安全や地域安全であれば空き巣を繰り返している人に体験に基づいて空き巣を防止するために必要な事を話してもらったり。「こういった家は侵入しやすいので直した方が良い」など、ピッキングをしている人は防犯策にも詳しく危ない家は分かるので、そんなふう役に立てる事ができたら良い方向に変わると思います。

僕は「悪に強い人間が変われば、善に徹底的に強くなる」と教えてもらいました。中途半端な人間が一番危ないですし、模範囚も危ないと僕は感じています。模範囚は刑務官に言われた通りにやっていれば良いと、そこに反省や悔い改めはありません。刑務所で懲罰も受けずに優雅に過ごす事＝刑務官の指示に従う事なので、指示がなければ動けず何もできないロボット人間が刑務所から出てくる事が多くなると僕は感じています。

これからの問題点として、弁護士との連携、警察・検察との連携、そして先ほどもお話しした再犯防止のための行政との連携が挙げられます。例えばホームレスの現状を自分の目で見て、「この人はお腹が空いている。だから食事を提供してあげよう」「この人は医療を求めている。であれば医療を提供してあげよう」と状況を知る事でいろんな対応ができますし、新しい政策も提言できると思います。

人がやりたくない事、やろうと思わない事には楽しみがたくさんあります。僕がマザーハウスを立ち上げたのは、こういう事をやっている所がなかったからです。やっている所がないので学べますし、全部自分で考えて新しい事をやらなければならないのでおもしろいです。マリアコーヒー（珈琲販売）にし

てもラウレンシオ（便利屋）にしてもきしゃぼん（古本募金）にしても、APS研究会にしても、皆さんにはご迷惑をおかけして爆弾発言もたくさんしてしまっていますが…。

**石塚** 周囲の人は大変なんですよ。支援はそんなに簡単なものじゃないですから。

皆さんにお読み頂いた言葉の中に「支え助けてくれた人々への感謝と傷つけ苦しめてしまった人々への謝罪、『ありがとう』と『ごめんなさい』を心から言える人は幸いである」があります。何かあった時にありがとうとごめんなさいはなかなか言えないと思いますが、それをきちんと言える事が当事者の第一歩であり、社会の人たちとの関係性の中でも大切な事です。よく仲間たちと「支援されて当たり前じゃない。当たり前は傲慢だ。自分が苦しいから支援されて当然だ」という思いをもってはダメ。自分で考え、自分がそういった人たちにできるように動く事も大切だ」と言っています。僕自身もなかなか難しい問題があり、やはり支えてもらわなければ今の状況にはならなかったと思います。

僕には子どもが3人いますが、子どもたちの事を考えると不安な部分もあります。やはりカミングアウトすれば子どもに何かしらしてくるのではと不安に思いますし、実際に出所した人間が逆恨みしてカミさんと子どもを脅した事がありました。本人は「元」と言っていたそうですが、警察が言うには現役のヤクザで警察が対応して中止命令も取ってくれましたが、そういう人間も実際にいます。でもそうでない人も頑張っている人もいますので、そういった人たちの姿をぜひ皆さんに見て頂きたいと思います。本日はありが

ありがとうございました。

**土山** ありがとうございました。

(2019 年 1 月 27 日)